



7、本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点
<p>1 ひも 1 m のねだんは何円でしょう。</p> <p>練習 4 m で 100円 1 2 m で 96円 2 3 m で 96円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひも 1 m のねだんは 練習 <math>100 \div 4 = 25</math> A, 25円</li> <li>言葉の式で表すと 代金 <math>\div</math> 長さ = 1 m のねだん</li> <li>ひも 1 m のねだんは ア <math>96 \div 2 = 48</math> A, 48円 イ <math>96 \div 3 = 32</math> A, 32円</li> </ul> <p>2 2.4 m で 96 円のひも 1 m のねだんは何円でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひも 1 m のねだんを求める式は <math>96 \div 2.4</math></li> </ul>	<p>&lt; ICT &gt; ひもの線分図を投影する。</p> <p>T1：整数のわり算であることを、ひもの線分図から理解させる。 T1：言葉の式に置き換え、1 m のねだんを求めるための計算の意味を理解させる。 T2：立式や計算の難しい児童に個別で指導する。</p> <p>&lt; ICT &gt; ひもの線分図を投影する。</p> <p>T1：言葉の式をもとに考えることを助言し、小数でわるわり算であることを、ひもの線分図から理解させる。</p>
<p style="text-align: center;"><math>96 \div 2.4</math> の計算の仕方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>96 \div 2.4</math> の計算の仕方は</li> <li><math>96 \div 2.4 = (96 \times 10) \div (2.4 \times 10)</math> <math>= 960 \div 24</math> <math>= 40</math> A, 40円</li> </ul>	<p>&lt; ICT &gt; わり算のきまりを投影する。</p> <p>T1：わり算のきまりを使って小数点をとると計算しやすいことに気づかせる。 T2：立式や計算の難しい児童に個別で指導する。</p>

3 0.8 mで96円のリボン1mのねだんは何円でしょう。

・ひも1mのねだんを求める式は

$$\begin{aligned}96 \div 0.8 &= (96 \times 10) \div (0.8 \times 10) \\ &= 960 \div 8 \\ &= 120 \quad \text{A, 120円}\end{aligned}$$

◎小数でわる計算では、わる数を整数にするために、わる数とわられる数の両方に同じ数をかけて計算する。

4 練習問題をしましょう。

- ・ P 79④
- ・ P 79③
- ・ 答えあわせ

< ICT >

ひもの線分図を投影する。

T1：答えを予想させてから考えさせる。

T1：わり算のきまりを使って小数点をとって計算する方法で計算させる。

T2：立式や計算の難しい児童に個別で指導する。

T1T2：本時の学習が習得できていない児童を中心に机間巡視をし、個別指導をする。